

第1回羽田発着枠政策コンテストの評価等に関する懇談会

議事概要

日時：平成25年7月29日9:30～11:30

場所：合同庁舎3号館4階特別会議室

主なご意見：

○コンテストの対象等について

【提案主体】

- ・航空会社と地域の共同提案で実施すべき。

【対象路線】

- ・対象路線は、1便・3便ルール対象路線でよいのではないか。
- ・取組の効果が高いところを対象とすべき。

【コンテスト枠の季節使用】

- ・枠を通年使用しないものは提案対象から外すべきではないか。
- ・通年か否かという点は、他地域と共同利用できれば良いのではないか。
- ・ピークシーズンが違う地域の組合せは認めるなど、色々な提案が出せるよう、できるだけ柔軟な制度にすべきではないか。

○評価基準について

【目標設定等】

- ・5年程度のシナリオを書いて貰い、まずは2年段階で評価する。その際には、後3年をどうやっていくのかも含めて評価してはどうか。
- ・目標設定も色々なものが出てきて良く、それを狭めることはない。

【取組】

- ・社会実験のときだけでなく、2年後以降の継続性も考えるべき。
- ・取組の先進性は、「他地域の良例」という意味か。
- ・評価項目は、多少整理する必要はあるにせよ資料案のもので網羅されている。
- ・評価基準の書きぶりには注意が必要。目標設定は単に旅客数が多ければ良いというものではないし、搭乗率保証をやらなければいけないというものではない。
- ・リスクの共有という評価項目は、取組体制にも入れてはどうか。

【考慮すべき事項】

(効率性の観点)

- ・1便だけあってもビジネス的にあまり効果がなく、3便や4便あれば利便性が高まり効率が良い。
- ・新規開設(0便→1便)も重要であり、評価すべきではないか。
- ・どのような便数を評価すべきかについては、提案の目的や取組等の内容次第ではないか。

(公平性の観点)

- ・経由便を多く有する空港については、利用者利便性の観点から重みを下げて良いのでは。他交通機関の分担率も同じであり、何らか評価に入れておくべき。
- ・新幹線に限らず、代替交通機関の影響は考慮すべき。

○評価におけるウェイト付け

- ・目標設定とそのための取組が重要。課題分析や考慮すべき点のウェイトは軽めで良いのでは。
- ・多様な関係者と連携していることや取組に持続性があることが重要。また、実現可能性があることも重要ではないか。
- ・代替交通機関の影響についてはしっかり見るべき。

○その他

- ・使用希望の便数や使用機材もプロポーザルに含めてはどうか。